

名 称	令和4年度 第1回ほどがや市民活動センター評議会 議事録		
日 時	令和4年6月27日(月) 14:00~16:00		
場 所	ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース		
出席者	評議会委員	有元 典文 委員 横浜国立大学教育学部教授 小倉 敬子 委員 (公財)かわさき市民活動センター理事長 近藤 博昭 委員 横浜商工会議所西部支部 支部委員 竹迫 和代 委員 参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター 藤枝 香織 委員 (一社)ソーシャルコーディネートかながわ理事・事務局長 堀 功生 委員 保土ヶ谷区連合町内会長連絡会会長	
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 地域振興課長 金子 強 " 生涯学習支援係長 李 悠 " 生涯学習支援係 ナイーム モハメド モアズ " 生涯学習支援係 鈴木 佑弥 " 生涯学習支援係 和田 喜代美	
	協働運営会議	代表 清水 蓬山	
	管理運営業務受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト	理事長 福島 伸枝 理事 佐藤 洋志 ほどがや市民活動センター センター長 北川 有紀 " 職員 吉弘 初枝 " 職員 小林 康夫 " 職員 佐野 林太郎 " 職員 姉川 圭一	

議題	1 令和4年度 ほどがや市民活動センター事業について 2 アドバイスシート記入 3 その他 意見交換
資料	1 令和4年度 ほどがや市民活動センター 第1回評議会委員・関係者名簿 2 令和4年度 ほどがや市民活動センター 事業計画・事業目標一覧 3 ほどがや市民活動センター評議会会則 4 ほどがや市民活動センター協働運営会議会則・組織図

*金子地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第8条に基づき、委員6名出席のため、本評議会の成立が確認された。

*令和4年度第1回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

議題1：令和4年度 ほどがや市民活動センター事業について

センター事業についてセンター長の北川から説明を行った。

【委員からの質問と回答および意見】

<意見>

■ 事業内容について

- 具体的な事業が10月位まで確定しているかと思ったが、今日の説明ではそうでなかったのが残念だった。
- 事業内容には本当にいいことが書いてあるが、これを本当にできるのかが課題。
- ネットワークづくりでは、保土ヶ谷区内各施設の方々との研修で何を打ち出していくかが難しい部分と感じた。方向性をはっきりと示せると良い。
- ほどがや会議の復活は応援したい。ただこの場に来られない人の為に同じような場はいくつもあるとよい。
- 「暗黙知の蓄積」の中にある「情報ステーション」や「地域の活動資源」、これをどのように打ち出すのか、よく検討するとよいと思う。
- 「土を耕す、種をまく、水をやる、風を送る」という表現が、途中から「ホップ、ステップ、ジャンプ」となっているが、団体活動の成長は人の成長とは異なり横並びではないので表現が違うと思う。
- どこに力を入れるかを考えて、目標と事業が一致するようなプログラムを企画する、更には単年度目標と全体目標が見えるようなプログラムがあるとよい。
- 区に一つしかない市民活動センターなので、ここに集まれる人は限られる。事業の影響力を高めるためには他の人がやっている企画にのせていく視点も必要になる。そのためにはセンターを出て異なる領域の人とつながっていくとよいと思う。
- 新規事業のかなり多くが「ほどがやサンプラプロジェクト」に関連する事業となっている。若者や新しい人から始めるというのはいいが、既存団体にどうアプローチをするかが、今回全く見えなかった。
- アワーズの主催事業と行政からの委託事業とは分けて考えたほうが良い。一緒にやってもその関係性が委託なのか、協働なのかははっきりさせることがお互いの為になる。
- アワーズや行政で事業を全てやるのではなく、小口の助成金を通して事業企画のサポートをすると、新規事業が育つ可能性がある。5万円の事業を3年4年と続けてやっていると、自立できるような団体がでてくる。
- アワーズとして持っている限られた資源（マンパワー）の重点をどこに置くのか検討を。「土を耕す、種をまく」を中心に取り組み、その後の部分は外部の力を借りるなどの方法も検討すべき。
- アワーズで企画するだけでなく、他の企画とコラボしその中でアワーズの使命を果たすことで、対象の幅を広げる、という手法についても検討してほしい。

■ コロナ禍の事業企画について

- コロナ禍でも前を向いて歩いていくという姿勢を持ち続けていくこと、これだと思ったものを続けていくということは大切だと感じた。
- コロナ禍で人間関係を練習するような機会が致命的に失われ、大学生もほとんど人とや

り取りする機会が奪われてしまった。そもそもそういう傾向にあったものがさらに追い打ちをかけられたせいで、対人関係の回復については悲観的になっている。だからこそ、こういう場所で顔が見えて安心安全に人とふれあえ、目的を持って活動ができる場所が大事と思う。

■ 当日の運営、説明内容、資料について

- 発表者の説明時間が長い。
- 資料の見やすさを求める。資料を見て、事業の目標、ねらい、内容と展開がすぐわかるように、もっと簡潔な文章にしてほしい。
- 何をいつ行うかなど具体的な事業計画がないと、年度末での振り返りで評価ができない。
- 当日配布でも構わないので話の見通しを立てられるような資料を準備してほしい。
- 目標の文章の意味がわかりづらく、「若者や新たな参画者が活動再開の原動力」という部分は本当にそうなのか疑問が生じた。
- 何を目指して事業をやるかが、資料の中で短く簡潔な言葉で伝えきれていない。

■ ほどがや・街の学習応援隊事業について

<質問>

街の学習応援隊事業というのはどういう目的をもってこれを事業として作られているのか？

<回答>

生涯学習支援センター時代からの事業で、市内全区で展開している。市民活動支援センターと生涯学習支援センターが複合化してアワーズがスタートした時に、事業を引き継いで今に至る。技術や資格を持った人で地域の学習活動にボランティアとして関わりたい人が登録する。地域の需要と登録者をマッチングさせ、これにより活動が盛んになることを目指している。アワーズ事業の一つとして位置付けている。

<意見>

この事業に対する評価指標、効果とか評価というのはどのようにしているのかが見えない。アワーズに必要な事業なのか、必要ならどれほどの力を入れるべきなのか、議論の材料が見えない。

議題 2 : アドバイスシート記入

議題 3 : その他意見交換